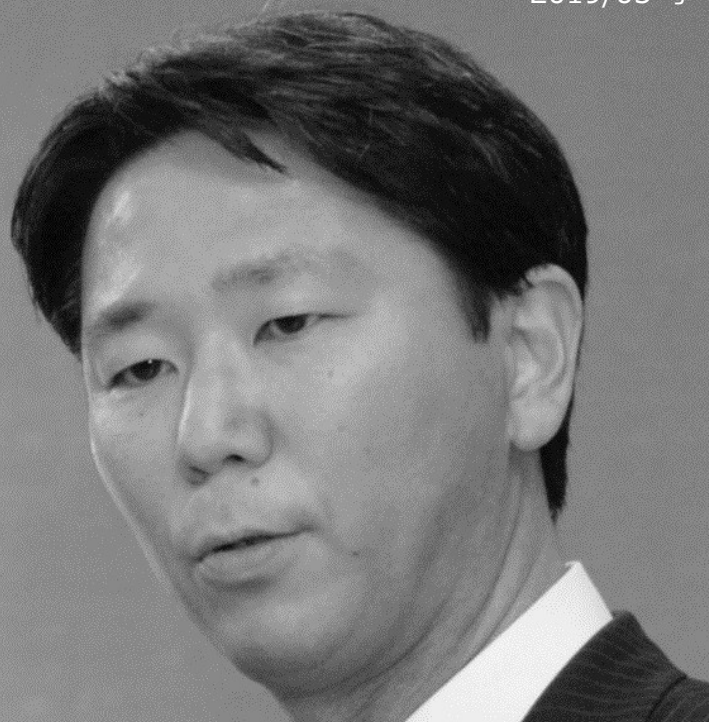


No Challenge, No Future
Hidehiko Oka



平成 31 年統一地方選挙レポート

江別市議会議員 岡 英彦

□ 江別市議会の女性議員比率、全国トップレベルとなる

今回の江別市議会議員選挙では、立候補者数 29 名のうち女性が 13 名、当選者数 25 名のうち女性が 12 名となり（いずれも過去最多）、女性議員比率が 48%と定数のほぼ半分となりました。市区議会での女性議員比率全国第一位は大阪府交野市の 50%ですので、全国トップレベルとなったことは間違いのないと思われ（尚、道内市町村では一位になっています）。

最近注目されている 2015 年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の 17 のゴールのうちの 1 つがジェンダー平等の達成であり、日本の取り組みが最も遅れている分野の 1 つであることを考えると、江別での政治分野における女性の参加拡大は素晴らしいことと言えます。

女性が政治分野に参画することで、経済分野においても女性も男性も活躍しやすい社会を目指す方向が強まり、他地域に先駆けて SDGs におけるジェンダー平等を達成していくことが期待されます。

□ なぜ江別市議会では女性議員比率が高いのか？

なぜ、江別市議会において、女性議員の参加拡大が進んできたのでしょうか？ これは地方の町村や小さな市における議員のなり手不足問題が関係していると考えられます。女性議員比率を取り上げた北海道新聞 2019 年 4 月 24 日江別面の記事には、「ある元市議は『月額 37 万 8 千円の議員報酬で議員活動しながら家族を養うのは無理で男は二の足を踏む。（後略）』」とのコメントが掲載されており、また、同記事では現職当選 6 回の高橋議員のコメントとして「『（前略）市議の仕事は男性が兼業しながらできるものではない。』」というものも紹介されています。

江別では、これまでのような従来型の男性のなり手が減少している一方、四半世紀を超えて継続して女性議員が活躍してきた歴史があり、市内で様々な地域活動や市民活動を行っている女性が政党のバックアップを受けるなどして議会に進出しやすい環境が整っているということが言えると思います。

□ 52.15% 市長選挙過去最低の投票率

現職と新人の一騎打ちとなり、マスコミからも注目されていた江別市長選挙ですが、残念ながら52.15%という過去最低の投票率となりました。

高齢化に伴い少なくない有権者が投票所に足を運ばなくなっている、18歳選挙権が江別の地方選挙において初めて実施され投票率を引き下げる方向に働いているといった要因はありますが、およそ半分の市民が自分たちの住む地域の選挙に関心を持っていないということは、主権者である国民が情熱と理解を持って政治に参画することが期待されている民主主義が上手く機能していないとも言えると思います。

江別の場合、市長選挙の実施された過去2回、知事選挙よりも市長選挙の投票率が下がっていることも特徴的です。一般により身近な市町村長の選挙の方が、知事選挙よりも投票率が高い傾向がありますし、日本の地方自治の制度上、市町村長の権限は非常に大きなものがありますので、自分たちの生活に最も密接に影響するのが市町村長選挙と言えますが、マスコミの報道量が少ない、政党間の対立とならず分かりにくいなど、関心を持ちにくい状況があるのかもしれません。

残念ながら地方選挙における投票率の低下は全国的な傾向であり、小手先でできる対策は限られています。抜本的には教育段階から民主主義への理解を深める必要があると言えます。残念ながらこれまでの教育は、民主主義社会の一員を育てるという意味では失敗してきたということが言えます。主権者教育についての改革を行い、新しい教育を受けた世代が育つのを待つという息の長い取り組みが重要となります。

=====

※ 供託金制度について

選挙に立候補する際には供託金というお金を事前に法務局に預ける必要があります。江別のようない政令市ではない一般の市の市議会議員選挙では30万円が必要です。供託金は落選しても返還されますが、一定の票数（有効投票総数÷議員定数÷10分の1）を取らないと没収されます。今回の江別市議選の場合は204票となります。

□ 選挙費用の収支

今回の市議会議員選挙の選挙運動に掛かった費用は次の通りでした。

●収入

自己資金 44万円

●支出

供託金 30万円（返還されました）

ポスター 269,676円（公費負担）

ビラ 30,040円（公費負担）

選挙カー 158,120円（11万円は公費負担）

運転手代 87,500円（公費負担）

燃料費 9,761円（公費負担）

印刷費 11,880円（ハガキ印刷代など）

広告費 44,377円（新聞折り込み料など）

食料費 30,011円（弁当代など）

雑費 2,242円

事務所費 0円（自宅を利用したため）

※ 運転手代以外の人件費はボランティアのため発生していません。

■公費負担制度について

市議会議員選挙では候補者の負担軽減のために選挙カー関連費、ポスター・ビラ作成費について市から助成される公費負担の制度があります。

江別市議選の場合、最大で選挙カーレンタル代15800/日、燃料代7560円/日、運転手12500円/日、ポスター代426140円、ビラ代30040円の助成が受けられます。

但し、公費負担は供託金が没収された場合は適用されず、自己負担になります。

選挙カーを使わない、もしくは自家用車にマグネットシートを張って移動のみに利用する場合、また、事務所を自宅にする場合、公費負担がある市では、それほど費用を掛けずに選挙運動を行うことができます。

編集・発行 岡 英彦

〒069-0811 江別市錦町 2-3-102

電話：011-384-2705 FAX：050-3457-5095

メール：info@ebetu.jp

ブログ：www.ebetu.jp